

建設副産物の物流状況等の 試行モニタリング (概要説明資料)

国土交通省

総合政策局公共事業企画調整課環境・リサイクル企画室

建設副産物物流のモニタリング検討の背景・目的・効果等

国土交通省「建設リサイクル推進計画2014」(H26. 9)

3. 新たに取り組むべき重点施策

赤字:モニタリングの充実策

青字:モニタリング結果を用いたリサイクル促進策

(1) 建設副産物物流のモニタリング強化

- ①混廃・廃木材・汚泥の直接処分要因等の把握(モニタリング)
- ②建設副産物物流のモニタリングの毎年実施
- ③再生クラッシュランのストック状況等の把握(モニタリング)、モニタリング結果に基づく利用徹底・拡大の推進

(5) 現場分別・施設搬出の徹底による再資源化・縮減の促進

- ②混廃・廃木材・汚泥の直接処分要因のモニタリング結果に基づく施設搬出徹底の要請
- ③個々の再資源化施設の再資源化・縮減率の把握(モニタリング)、モニタリング結果に基づく再資源化・縮減率が高い優良な施設への搬出推進

(6) 建設工事における再生資材の利用促進

- ①個々の工事における再生資材利用状況の把握(モニタリング)、モニタリング結果に基づく再生資材利用徹底の要請

【モニタリング充実の方向性】

- ①毎年のデータ化、②個々の工事の状況把握の充実、③対応が不十分な者への要請

【取り組み効果】

建設副産物の物流・滞留状況の細やかな把握、建設副産物の再資源化・縮減率の向上、建設副産物由来再生資材の利用促進

【取り組むにあたっての留意点】

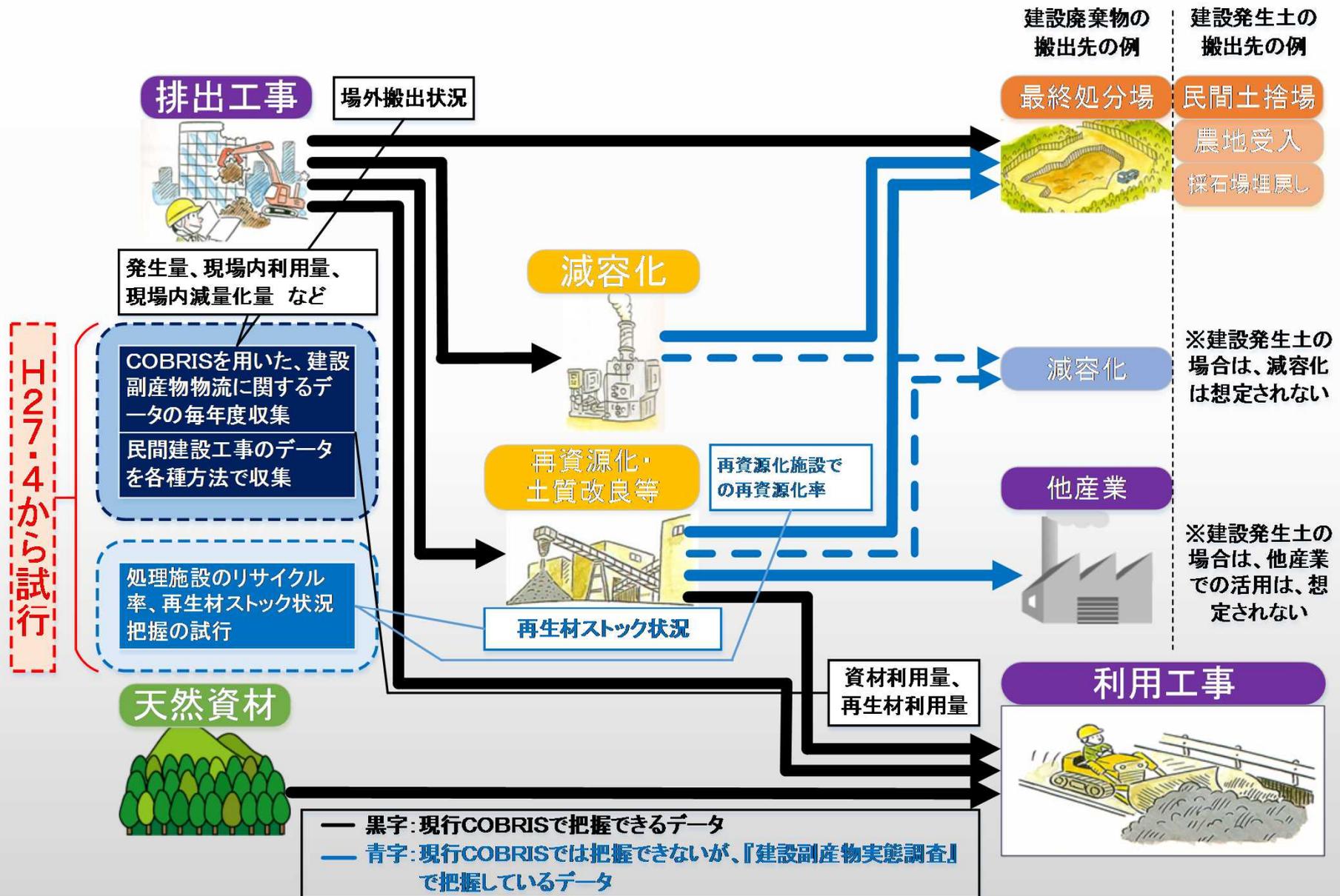
—既存データを有効活用し、入力者の負担を出来るだけ軽減

H27年度から試行する建設副産物物流のモニタリング

■H27. 4から試行する、建設副産物物流のモニタリングは、次のとおりとする。

1. COBRIS登録データを用いて、建設副産物物流に関するモニタリング(データ収集・整理)を毎年度実施(H26年度以降のデータを順次整理)
2. 1.の精度向上のため、民間建設工事データを各種方法で収集(H27. 4より実施)
3. 処理施設のリサイクル率、再生資材ストック状況把握の試行実施(H27. 4より実施)

H27. 4から試行する建設副産物物流のモニタリング



1. COBRISを用いたデータ収集について

■「1. COBRISを用いたデータ収集」は、次の方法等により行うこととする。(H26年度以降のデータを順次整理)

- 公共工事(国発注工事、自治体発注工事等)は、COBRISに登録されているデータを活用
 - 公共工事については、COBRISデータの活用により30%以上の補足率の確保が見込める。
 - ※国発注工事に比べて、自治体発注工事の捕捉率が相対的に低いため、その補足率向上についても別途調整。
- 民間工事(民間土木工事、民間建築工事等)についても、COBRIS登録データを活用
 - ただし、民間工事は1~4%程度の補足率しか見込めない。
 - このため、建設会社(元請会社)のご協力のもと、さらなるデータ収集を図ることが必要。

2. 民間建設工事データの収集について

■建設会社の建設副産物等に関するデータ管理方法(電子的データによる情報管理)は、次の5つに分類される。

区分	データ管理方法の概要	備考
① COBRISによる管理	COBRISにより、建設副産物等に関するデータを管理するもの	
② CREDASによる管理	CREDASにより、建設副産物等に関するデータを管理するもの	
③ 独自システム(情報不足無し)による管理	各社独自のシステムにより、情報管理を実施するもの モニタリングに必要とされるすべての情報を収集・管理するもの	
④ 独自システム(一部情報不足あり)による管理	各社独自のシステムにより、情報管理を実施するもの モニタリングに必要とされる情報のうち、一部の情報が不足しているもの	
⑤ 電子マニフェストによる管理	電子マニフェストのみ活用し、情報管理を行うもの	土砂に関する情報、資材搬入に関する情報は、収集・管理対象外

2. 民間建設工事のデータの収集について

- 建設工事を対象としたモニタリングの試行のうち、民間工事については次の方法によりデータ提供して頂くことを想定。
- 各社の、建設副産物等に関する情報管理方法により、それぞれ次の通りを想定。
- また、電子マニフェストASP事業者を介したデータの提供方法も認めるものとする。

区分		データ提供方法(建設会社の対応方法等)
①	COBRISによる管理	COBRISにデータ登録(とくに、変化なし)
②	CREDASによる管理	・CREDASで作成した提出用ファイルを電子メールで『モニタリング試行事務局(仮称)』に提供
③	独自システム(情報不足無し)による管理	・電子データを作成し、『モニタリング試行事務局』に電子メールで提供
④	独自システム(一部情報不足あり)による管理	・電子データを作成し、『モニタリング試行事務局』に電子メールで提供 ・不足情報がある場合、『モニタリング試行事務局』より各社に個別確認
⑤	電子マニフェストによる管理	・各社の工事ごとの電子マニフェストデータを『モニタリング試行事務局』に提供 ・不足情報がある場合、『モニタリング試行事務局』より各社に個別確認
⑥	電子マニフェストASP事業者を介したデータ収集	・各社の工事ごとの電子マニフェストデータの提供をASP事業者に依頼 ・ASP事業者が『モニタリング事務局』に提供 ・不足情報がある場合、『モニタリング試行事務局』より各社に個別確認

H27. 4からの試行について(民間建設工事)

■民間建設工事に関するモニタリングデータの収集は、次の方法で行う。

▶モニタリングの参加者(試行参加者)

- ▶日本建設業連合会、全国建設業協会、住宅生産団体連合会、全国解体工事業団体連合会の加盟会社のうち試行にご協力いただける企業

▶民間工事の情報提供方法

▶対象工事の選定方法(H27年1~3月竣工の工事データから順次モニタリング)

▶資源有効利用促進法(ラージリサイクル法)の対象工事を対象に選定

- ▶搬入工事 土砂:1,000m³以上 砕石:500t以上 As合材:200t以上 のいずれかに該当
- ▶搬出工事 建設発生土:1,000m³以上 Co塊、As塊、建設発生木材合計:200t以上 のいずれかに該当

▶各社、地域ごと(北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国、四国、九州、沖縄地域ごと)に、民間土木工事、民間建築(新築、増改築)工事、民間建築(解体)工事のそれぞれ1工事程度抽出(該当案件が多数ある会社に配慮)

▶上記の資源有効利用促進法の基準に満たない住宅工事、解体工事が主体の建設会社については、地域ごと(10地域)に、木造新築工事、非木造新築工事、木造解体工事、非木造解体工事のそれぞれに1工事程度抽出(該当案件が多数ある会社に配慮)

▶H28年度以降は、試行の効果等を勘案して再検討

▶提供方法、提供フォーマット

- ▶各社のデータ管理方法(P6の①~⑤)ごとに、『モニタリング試行事務局』と事前に調整
- ▶各社のデータ管理方法ごとにP7の方法により情報提供を行うことを基本とする

▶情報提出時期

- ▶四半期ごとのデータ提供を基本とする

H27. 4からの試行について(民間建設工事)

■ 民間建設工事に関するモニタリングの調査項目は、次のとおりを想定。
 ■ 次の項目のうち、各建設会社においてデータ管理しているもので、提供可能な情報とする。

調査項目等	電子マニフェスト 廃棄物コード	必須/任意区分	記入内容等
工事概要	工事名	▲	例)ビル工事(No.1212)
	発注機関	○	コード選択
	工事場所	○	市町村コード
	工事種類	●	コード選択
	工期	○	年月日を記入
	請負金額	○	万円単位
	延床面積	○	建築工事の場合記入
	構造(建築工事:木造、非木造区分)	○	コード選択
	請負会社名	●	
	担当者名	●	
	TEL	●	
	建設副産物	対象品 Co塊	1501000
As塊		1502000	● 下記「調査項目」について回答
木材A(木材が廃棄物となったもの)		0810000	● 下記「調査項目」について回答
木材B(伐木、除根材)		0811000	● 下記「調査項目」について回答
建設汚泥		0221000	● 下記「調査項目」について回答
金属くず		1200000	● 下記「調査項目」について回答
紙くず		0710000	● 下記「調査項目」について回答
廃プラスチック		0600000	● 下記「調査項目」について回答
廃塩ビ管		0608000	● 下記「調査項目」について回答
廃石膏ボード		1322000	● 下記「調査項目」について回答
アスベスト(石綿含有産業廃棄物)		2410000	○ 下記「調査項目」について回答
~		2470000	
その他		----	○ 下記「調査項目」について回答
建設混合廃棄物		2000000	● 下記「調査項目」について回答
建設発生土		----	○ 下記「調査項目」について回答
第1種建設発生土		----	○ 下記「調査項目」について回答
第2種建設発生土		----	○ 下記「調査項目」について回答
第3種建設発生土		----	○ 下記「調査項目」について回答
第4種建設発生土		----	○ 下記「調査項目」について回答
浚渫土		----	○ 下記「調査項目」について回答
浚渫土外泥土	----	○ 下記「調査項目」について回答	
調査項目(品目ごと)	発生量	○	例) 200t(廃棄物の場合)、 200m3(建設発生土の場合)
	現場内利用量	○	同上
	現場内減量化量	○	同上
	場外搬出量	●	同上
	搬出先名称	●	例) ○○再資源化施設
	搬出先住所	●	住所コード入力
	運搬距離	○	23km
	搬出先種類	○	コード選択

※「必須/任意区分」 ●: 必須項目
 ▲: 必須項目(住宅等で工事名称に個人名などが入っている場合は、一部の情報を修正しても構わない。ただし、追跡調査が可能となるよう、個別工事が特定できる形式で修正してください。)
 ○: 任意項目(情報提供が可能な場合)

調査項目等	必須/任意区分	記入内容等			
調査項目(品目ごと)	○	コンクリート(新材)	生コン(バージン骨材)		
		無筋コンクリート二次製品(バージン骨材)			
		その他			
		コンクリート(再生材)	再生生コン(Co再生骨材H)		
			再生生コン(Co再生骨材M)		
			再生生コン(Co再生骨材L)		
			再生生コン(その他のCo再生骨材)		
			再生生コン(Co再生骨材以外の再生材)		
			再生無筋コンクリート二次製品		
			その他		
			Co及鉄資材(新材)	有筋コンクリート二次製品(バージン骨材)	
			その他		
			Co及鉄資材(再生材)	再生有筋コンクリート二次製品	
		木製資材	再生木材(その他)		
			木製資材(新材)	再生木材(ボード類除く)	
			木製資材(再生材)	木質ボード	
			木製資材(再生材)	木材(ボード類除く)	
			木質ボード		
			アスファルト混合物	アスファルト混合物(新材)	粗粒度アスコン
				密粒度アスコン	
				細粒度アスコン	
				開粒度アスコン	
				改質アスコン	
		アスファルトモルタル			
		加熱アスファルト安定処理路盤材			
		その他			
		再生アスファルト混合物		再生粗粒度アスコン	
		再生密粒度アスコン			
		再生細粒度アスコン			
		再生開粒度アスコン			
再生改質アスコン					
再生アスファルトモルタル					
再生加熱アスファルト安定処理路盤材					
その他					
碎石	碎石(新材)	クラッシュシャーラン			
	粒度調整砕石				
	単粒度砕石				
	ぐり石、割ぐり石、自然石				
	その他				
	再生碎石類	再生クラッシュシャーラン			
	再生粒度調整砕石				
	篩さい				
	その他				
	土砂	第1種建設発生土			
第2種建設発生土					
第3種建設発生土					
第4種建設発生土					
浚渫土					
土質改良土					
建設汚泥処理土					
再生コンクリート砂					
山砂等新材					
調査項目(品目ごと)		○	例) 200m3(土砂の場合)、 200t(土砂以外の場合)		
	○	コード選択			
	○	例) ○○再資源化施設			
	○	コード選択			
	○	コード選択 ・現場内利用 ・他工事(内陸) ・他工事(海面) ・再資源化施設 ・土砂ストックヤード ・その他			

※「必須/任意区分」 ●: 必須項目
 ○: 任意項目(情報提供が可能な場合)

3. 処理施設のデータ収集について

■建設廃棄物処理施設を対象としたモニタリングの試行は、『年間のリサイクル率(処理実績)』及び『月次の再生品在庫状況』に関する情報収集の試行を行う。

①年間のリサイクル率

- 1年間の処理実績(年間受入実績、再生品出荷量、減量化量、処理後最終処分量 など)
- 施設受入後のリサイクル率:

$$\text{再資源化率(\%)} = \frac{\text{年間再生品出荷量(t)}}{\text{年間受入量(t)}}$$

②月次の再生品在庫状況

- 月初の再生品在庫量(再生品種類別(RC-30、RC-40、汚泥処理土、燃料用木材チップなど)の月初在庫量)
- 月次の建設廃棄物受入量(建設廃棄物の月間受入量)
- 月次の再生品出荷量(再生品種類別の月間出荷量)
- 月末の再生品在庫量(再生品種類別の月末在庫量)

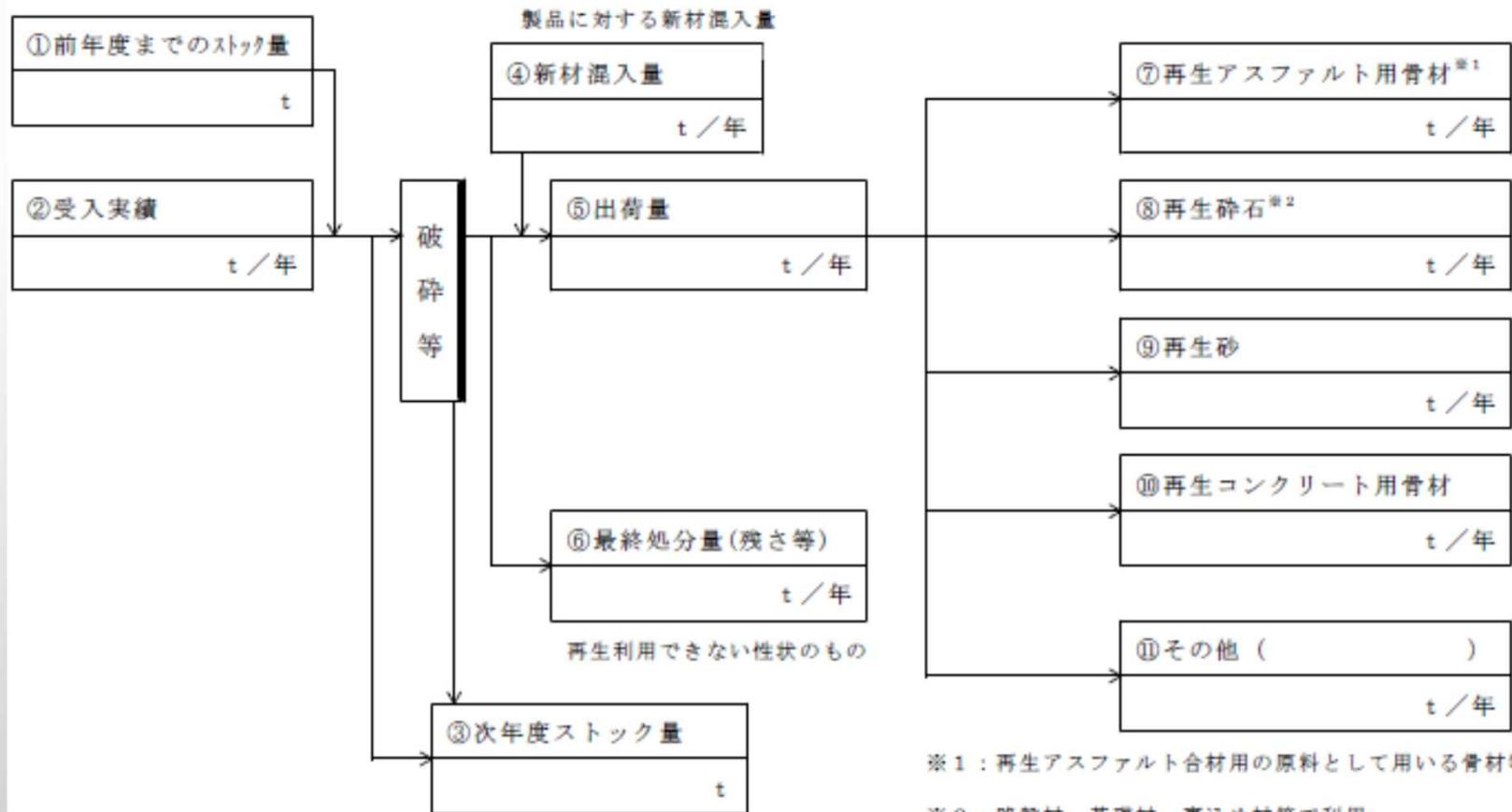
3. 処理施設のデータ収集について

■『年間のリサイクル率(処理実績)』については、次のようなフォーマットに情報を記載し、データの提供をして頂く。

建設廃材(Co塊、As塊)処理施設のリサイクル率に関する情報提供フォーマット

●施設の概要等

会社名			
事業所名			
事業所所在地			
事業所TEL		事業所FAX	



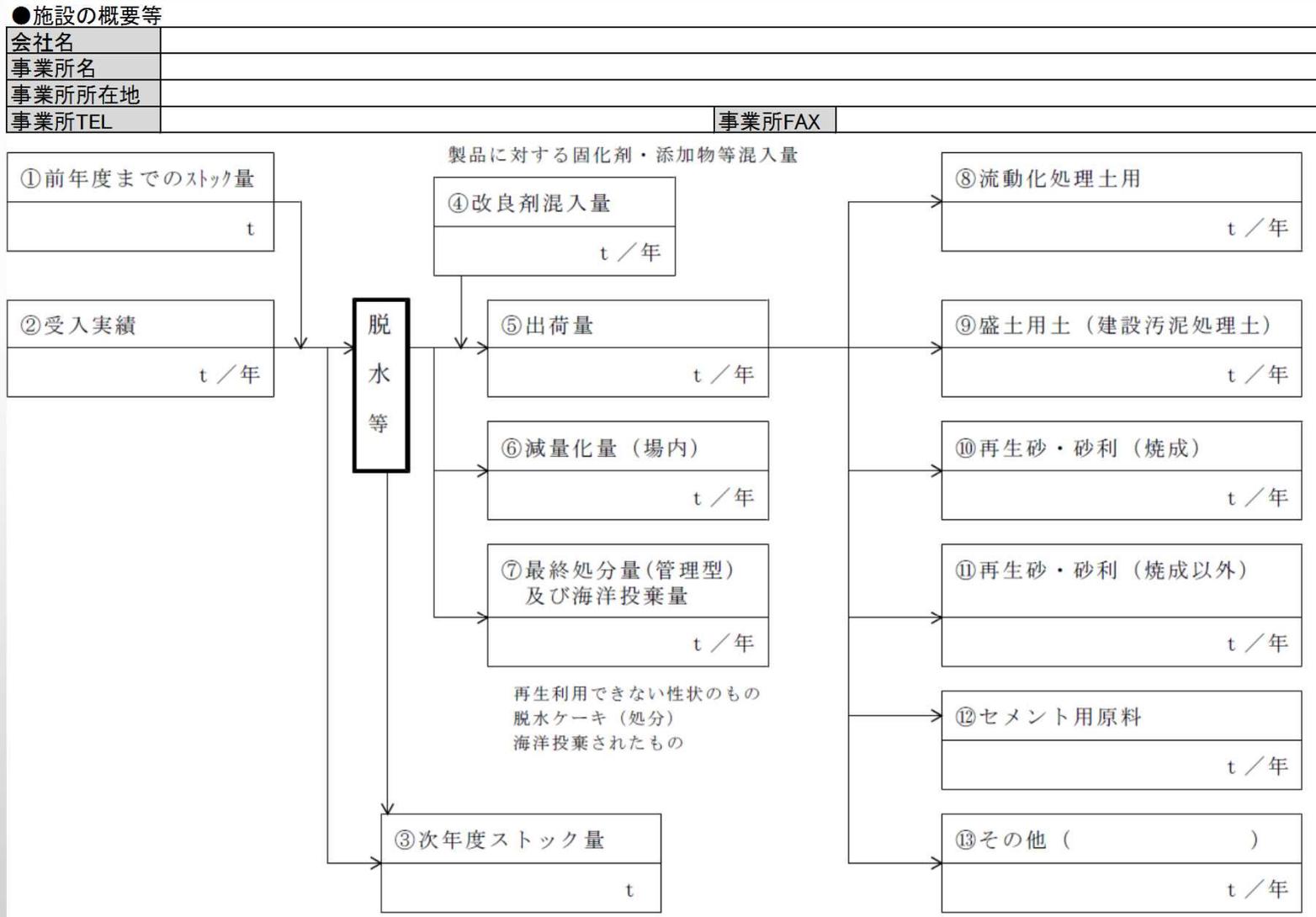
※1：再生アスファルト合材用の原料として用いる骨材等

※2：路盤材、基礎材、裏込め材等で利用

3. 処理施設のデータ収集について

■『年間のリサイクル率(処理実績)』については、次のようなフォーマットに情報を記載し、データの提供をして頂く。

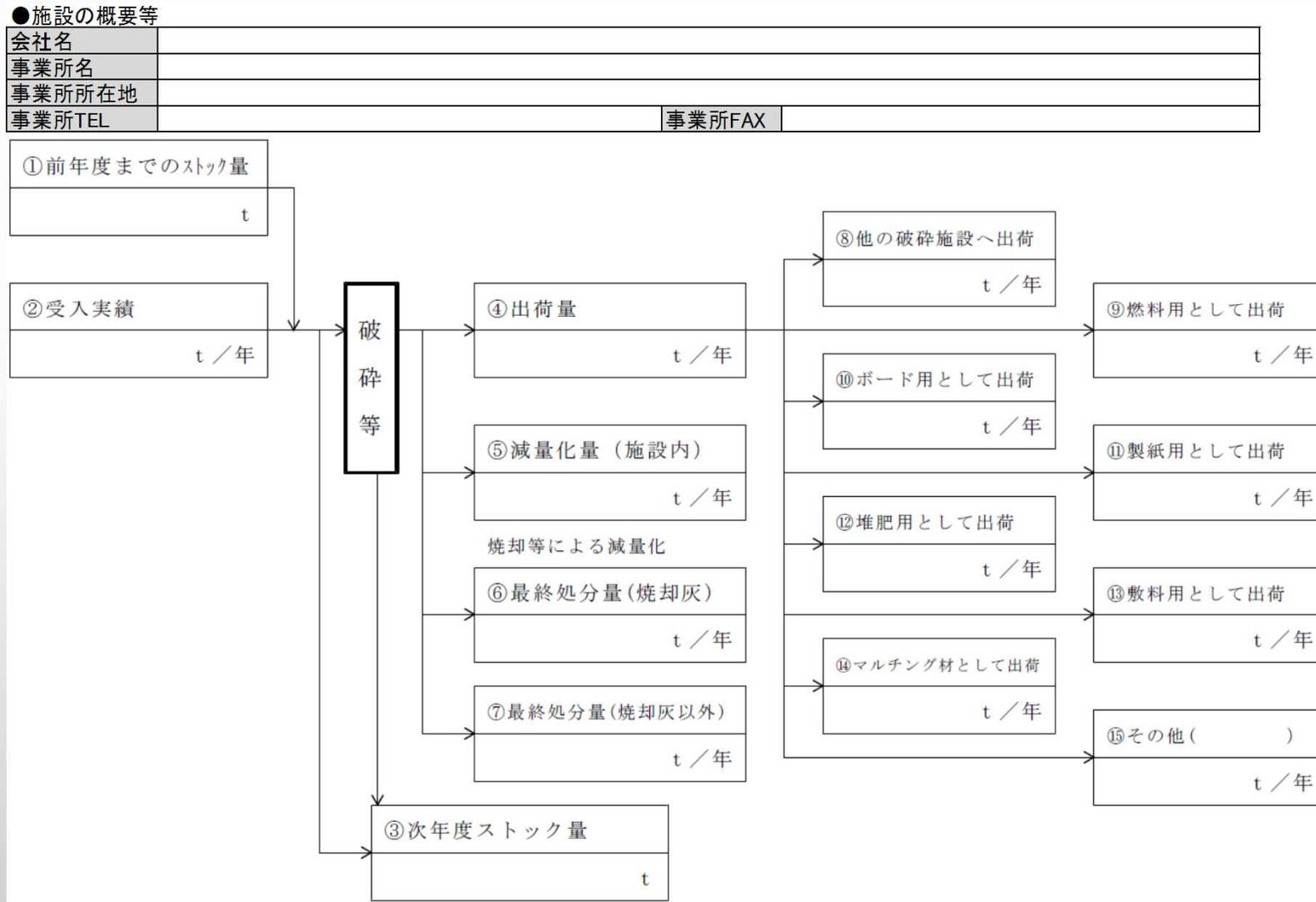
建設汚泥処理施設のリサイクル率に関する情報提供フォーマット



3. 処理施設のデータ収集について

■『年間のリサイクル率(処理実績)』については、次のようなフォーマットに情報を記載し、データの提供をして頂く。

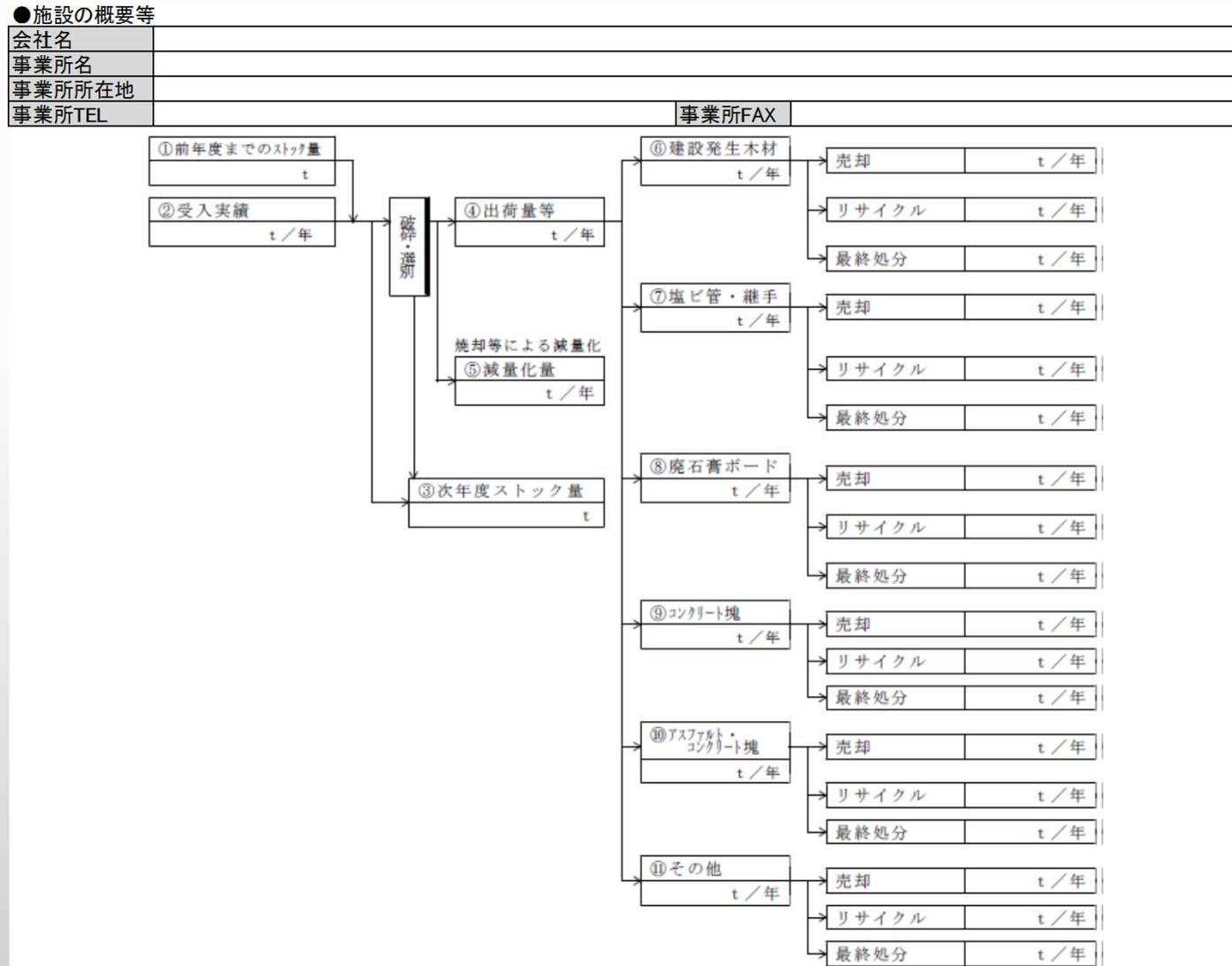
建設発生木材処理施設のリサイクル率に関する情報提供フォーマット



3. 処理施設のデータ収集について

■『年間のリサイクル率(処理実績)』については、次のようなフォーマットに情報を記載し、データの提供をして頂く。

建設混合廃棄物処理施設のリサイクル率に関する情報提供フォーマット



3. 処理施設のデータ収集について

■『月次の再生品在庫状況』については、次のようなフォーマットに情報を記載し、データの提供をして頂く。

「月次の再生品在庫状況」に関する情報提供フォーマット

●施設の概要等

会社名			
事業所名			
事業所所在地			
事業所TEL	事業所FAX		

(再生資材名:)

区分	H27.4	H27.5	H27.6	H27.7	H27.8	H27.9	H27.10	H27.11	H27.12	H28.1	H28.2	H28.3
① 月初 再生品在庫量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
② 月間 廃棄物受入量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
③ 月間 再生品出荷量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
④ 月末 再生品在庫量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t

(再生資材名:)

区分	H27.4	H27.5	H27.6	H27.7	H27.8	H27.9	H27.10	H27.11	H27.12	H28.1	H28.2	H28.3
① 月初 再生品在庫量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
② 月間 廃棄物受入量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
③ 月間 再生品出荷量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t
④ 月末 再生品在庫量	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t	t

※: 処理施設内での減量化や原材料(廃棄物以外)の添加もあるため、
月末在庫量(④) = 月初在庫量(①) + 月間受入量(②) - 月間出荷量(③) とならないことも想定されます。

※: 2種類以上の再生品の製造を行っている場合は、コピー等して記入してください。

H27. 4からの試行について(建設廃棄物処理施設)

■建設廃棄物処理施設に関するモニタリングの情報提供は、次の方法で行うことを想定。

➤モニタリングの参加者(試行参加者)

➤全国産業廃棄物連合会(建設廃棄物部会)の委員等の企業でご協力いただける施設

➤施設状況の情報提供方法

➤年間のリサイクル率に関する情報提供方法

➤電子メールによる情報提供

➤年1回の情報提供

➤規定のエクセルファイル(P11~P14参照)を電子メールに添付

➤月次の在庫状況に関する情報提供方法

➤電子メールによる情報提供

➤月1回の情報提供

➤規定のエクセルファイル(P15参照)を電子メールに添付

データ整備後、『モニタリング試行事務局』によりグラフ化等を行い、専用の[ホームページ](#)等で情報提供を実施。